

石工事ウーマン ～石を読む女～

本名：石動 凜（いするぎ りん）

出身地：熊本県山鹿市生まれ。

#6

石工を何台も続ける家に生まれた一人娘。家の裏は石材置き場。ブランコより石、砂場より碎石。幼稚園のお絵描きで描いたのは「石垣」。先生に「これ何？」と聞かれ、凜は真顔で答えた。「重心、合ってます。」
・・・・・・この頃から、少しズレていた。「女が石工？！！」

進路相談で言われたその一言が、岩の胸に刺さった。重たい石、男社会の現場、汚れる仕事。周囲は止めたが、凜は逆に火がついた。

「石は性別を見ない。積んだ腕だけを見る」

高校卒業後、家業に入ることを決意。最初は運搬、清掃、道具の手入れ。誰よりも早く現場に入り、誰よりも遅く帰った。石の据え方、割り方、刻み方。何度も手を切り、腰を痛め、それでも石から離れなかった。

転機は、豪雨で崩れた山間部の石積み修復工事。

「女だから任せられない」と外されそうになったが、石の癖を見抜いた凜の判断で崩落を防いだ。その日から、現場での呼び名はこう変わった。

「石を読む女」城跡、寺院、擁壁、景観石積み。

伝統工法を守りながら、災害に強い石工事を手がける。

凜が積む石は、見た目が美しく、百年先も崩れず、人の暮らしを静か守る。それが石工事ウーマンの誇り。

